

荒ぶる魂

早稲田大学高等学院
ラグビー部
のご紹介

早稲田大学高等学院
ラグビー部OB会

早稲田大学高等学院ラグビー部

◆歴史

早稲田大学高等学院ラグビー部は、長い歴史を有する伝統クラブです。1949(昭和24)年、戦後の新制高等学院発足と同時に創部し、今年で71周年を迎えました。

1918(大正7)年に創部し102年の歴史を有する早稲田大学ラグビー蹴球部を兄貴分とし、これまで共に歴史を重ねてきました。

伝統の『赤黒ジャージー』や部歌『北風』は、早大ラグビー部と同じです。そして優勝した時にだけ歌うことが許される第二部歌『荒ぶる』も継承しています。

高等学院ラグビー部では、この『荒ぶる』を過去三度、全国高校ラグビー大会東京都予選優勝を成し遂げた時に歌うことが許されました。

高等学院ラグビー部は、『継承』と『緊張』と『創造』の精神のもとに、常に優勝を目指して活動を続けています。

◆過去三度の「花園」出場

「花園」——それは高校ラグビーの聖地であり目標——

高等学院ラグビー部は、全国有数の激戦区で知られる東京都予選を勝ち抜き、過去三度の全国大会出場を果たしています。

初出場は1978(昭和53)年、当時高校日本一と言われた国学院久我山と都大会決勝で対戦。久我山の猛攻を激しいタックルで破り、9-6で見事東京代表の栄冠を勝ち得ました。

二度目は1988(昭和63)年、強力FWを擁する本郷高校と都大会決勝で対戦し、16-15という大接戦で劇的な勝利を収めました。早大ラグビー部に受け継がれる勝利の歌『荒ぶる』が競技場に高らかに響き渡った感動の瞬間でありました。

三度目が1990(平成2)年、宿敵・国学院久我山を都大会決勝で10-0で下し、花園出場を果たしています。全国大会ではノーシードながら順調に勝ち上がり、準々決勝で全国有数の強豪・大阪工大高(現在の常翔学園)と対戦しました。雨中での激しい戦いの中、当時高校日本一と言われた強力FWを擁する大阪工大高に対し、一歩も引かない壮絶な戦いが繰り広げられました。後半、高等学院がBKのトライで6点リードした後、大阪工大高が同点のスクラムトライ。そのまま同点引き分けでノーサイドとなり、抽選の結果、大阪工大高が準決勝へ駒を進めました。この試合は本大会ベストゲームとして、今でも語り継がれています。



◆大西鐵之祐先生の教え

延べ9年間指揮を執った早大ラグビー部を何度も頂点に導き、日本代表監督として1968(昭和43)年にオールブラックスジュニアを23-19で破り、1971(昭和46)年にはイングランド代表に3-6と肉薄するなど、桜のジャージに輝かしい時代をもたらした名将・大西鐵之祐。

1995(平成7)年に亡くなる直前までその情熱は衰えず、晩年は高等学院ラグビー部の指導に力を注ぎました。“鉛筆より重たい物を持ったことがない”といわれた高等学院のラグビー部員を、その知と熱によって鍛えに鍛え、三度の全国大会に導きました。その教育理念は、今もなお高等学院ラグビー部に脈々と受け継がれています。

大西先生の教えは「勝利への飽くなき追求こそが、人間を成長させる。しかし、ただ勝てばよいのではない。体を張った極限状態の中で、フェアであることを自らに課すことが大切だ。合法か違法かではなく、フェアかアンフェアかで行動しなければならない」というものでした。

目の前に5億円を積まれた時に、本能的にそれを拒否できる人間を育てたい。ジャスティスよりフェアネスを知る人間を育てたい。勉強だけでもダメ。ラグビーだけでもダメ。高等学院に入学し、ラグビー部で切磋琢磨し、真のナショナルリーダーたりえる若者に育てて欲しい。それが我々高等学院ラグビー部の基本理念です。



◆指導体制、トレーニングスタッフ

早稲田大学高等学院ラグビー部は伝統的にOBが指導する体制をとってきました。それはOBが指導することにより「早稲田ラグビー」の戦術、技、そして魂を次世代へ永遠に継承していくためです。高等学院や早大のラグビー部OBから選出された監督・コーチ陣はほとんどが会社員のため、平日は生徒主体で運営し、土日を中心に監督・コーチ陣の綿密な指導が行われています。

また早大ラグビー部との連携により、専任のトレーニングスタッフやメディカルトレーナーが、ラグビーには欠かせない体力作りとケガ等の管理を科学的に行っています。さらに今シーズンより早大ラグビー部からプロコーチが派遣され平日の指導に当たっており、技術面・体力面・戦略面でのハイレベルなコーチングを実施しています。

日頃の活動は、高等学院の人工芝グラウンド、早大上井草の天然芝グラウンドを使用し、筋トレは高等学院が誇る最新トレーニングルームで行います。

高等学院ラグビー部では、恵まれた環境の中、厳しい練習を通じて、生徒が人生の大きな糧となるものを得ることを目指しています。

◆早稲田大学ラグビー蹴球部との繋がり

早稲田大学ラグビー蹴球部は、創部100年を超える歴史の中で常に全国のトップであり続けています。その早大ラグビー部には多くの高等学院出身者が入部し活躍してきました。現在、早大ラグビー部の現役部員の中で、高等学院出身者は14名。高等学院出身者で早大ラグビー部を卒業した歴代のOBも150名を超え、他校出身者を圧倒しています。2002(平成14)年度に完成した早大上井草グラウンドはラグビー専用で、一年中緑の芝に覆われています。ここで、練習試合や定期戦等を行ったり、大学生の胸を借りて出稽古を行ったりしています。

◆定期戦

高等学院ラグビー部は、都大会等の公式戦以外に定期戦を大切にしてきました。現在、毎年秋に行われている早慶戦(慶應義塾高)は70年以上の歴史を持ち、また春の四校対抗(慶應義塾、青山学院、成蹊)、関西遠征(同志社香里、京都府立洛北)、三校対抗(早稲田実業、早大本庄高等学院)の定期戦が、年間スケジュールに組み込まれています。他校との交流をラグビーを通じ、ライバルとして、生涯の友として、互いに切磋琢磨しています。



早稲田大学高等学院について

◆自由な学びの場

早稲田大学高等学院は、早稲田大学ただ一つの附属男子校であり、卒業生全員に早稲田大学へと進む道が約束されています。1920(大正9)年に早稲田大学の予科(大学での研究に必要な教養を身につけるための学校)として設置された旧制早稲田高等学院を源流として、1949(昭和24)年に新制高等学校になったことから、まもなくちょうど100年となる歴史を誇ります。かつては早稲田大学の各学部で学ぶ学生の大半が高等学院の修了生でした。現在でも、例えば政治経済学部の1学年約850人のうち、高等学院の卒業生は110人と実に8人に1人の割合を占めています。これは高等学院生こそが早稲田大学の本流であることを示しています。つまり、高等学院には、受験にとらわれない「学びの自由」があります。自らの探究心に沿って、勉強やクラブ活動に思う存分打ち込みながら、それぞれが思い描く未来への道を切りひらいて行くことができます。

また、生徒の主体性を大切に考える自由な校風が特長で、制服も校則もありません。多くの卒業生が高等学院在学中から、自らの未来を見据えて自らを育て、政治・経済・文化など社会のあらゆる分野で活躍しています。ちなみに、ラグビーワールドカップ2019日本大会公式キャッチコピーの「4年に一度じゃない。一生に一度だ。- ONCE IN A LIFETIME -」は、高等学院卒業生のラグビー部OBによるものです。



◆自己推薦入試制度

あまり知られていないかも知れませんが、高等学院には、1998(平成10)年度から自己推薦入試の制度があります。これは、高等学院を第一志望とすることによって、中学校など他者の推薦を受けることなく、自分で自らの可能性をアピールして推薦することができる、たいへんユニークな制度です。この制度で入学定員の2割にあたる100人を募集しています。中学校での成績と出席状況の一定の基準さえ満たせば誰でも受験が可能で、いわゆるスポーツ推薦入試とは異なるため、実績や記録などは応募の条件ではありません。もちろん、これまでに残した輝かしい実績や記録があれば、調書にそれを記載してアピールすることもできます。しかし、この制度で求められていることは、それまでに何をしてきたかだけでなく、高等学院に入学して何に打ち込みたいか、さらに早稲田大学の各学部に進学して何を学びたいか、そして、社会に出たあとに自らの能力・学問を生かして、どのように社会に貢献したいのか、そのような一本の道筋がぼんやりとでも見えていること、そしてそれを説明できる力があることです。ラグビー部の生徒やOBにも、多くの自己推薦入試による入学者がいます。この制度での入試を考えている方には、ラグビー部OBから体験談などをお話しする機会を設けたいと考えています。ぜひ、お声掛け下さい。

入試に関する詳細は、次ページを参考にして下さい。



(2020年度 入学試験要項より抜粋)

※2021年度については学校HPをご覧ください。 <https://www.waseda.jp/school/shs/>

◆一般入学試験

募集人員： 第1学年 男子 260名（帰国生18名を含む）

出願資格： ① 2003年4月2日以降、2005年4月1日までに出生した者。

② 次のいずれかに該当する者。

a. 日本国内の中学校を2020年3月に卒業見込みの者、および2019年中に卒業した者。

b. 2020年3月末までに国の内外を問わず通常の課程による9か年の学校教育を修了または修了見込みの者。

試験日： 2月11日 筆記試験（英語・国語・数学・小論文）

2019年度実質倍率：2.61倍

◆自己推薦入学試験

募集人員： 第1学年 男子 約100名

出願資格： 以下①～⑤のすべての要件を満たしている者

① 高等学院を第一志望とし、合格した場合は入学を確約できる者

② 2004年4月2日以降、2005年4月1日までに出生した者。

③ 2020年3月中学校を卒業見込みの者。

④ 中学校3年次第2学期の学期成績が、9教科合計（5段階評価）で40以上の者。ただし、2期制の学校で3年第2学期の成績がない場合は、最新の成績（これがない場合に限り3年前期成績）とする。

⑤ 3年間の欠席合計が30日以内の者。ただし、30日を超えても正当な自由（事故・入院等による欠席）のある場合は、出願資格を認めることもあるので、事前に高等学院に問い合わせること。

試験日： 1月22日 出願者全員に面接

2019年度実質倍率：2.42倍

※自己推薦入試で不合格となった場合も、一般入試を受験することができます。ただし優遇制度はありません。他の受験生と同じ条件での受験となります。

**※入試に関する情報は、間違いや変更がある場合があります。
必ず、学校の発信する最新情報をご確認ください。**



早稲田大学ラグビー蹴球部
部歌

『北風』

北風のただなかに
白雪踏んで
球蹴れば、奮い立つ
ラグビーワセダ
抜山の威力
蓋世の意氣
男児の勢、数あれど
ワセダラグビー ラララララ
ワセダラグビー ラー

問い合わせ先
〔早稲田大学高等学院ラグビー部OB会〕
contact@ml.gakuin-rob.com

幹事：小笠原

参考
〔早稲田大学高等学院ラグビー部HP〕
<https://www.wasedarfc.com/>

〔早稲田大学高等学院HP〕
<https://www.waseda.jp/school/shs/>

